

令和7年度の主な取組【施政方針より】

1. 人・文化を育む

■学校教育の充実～教育改革3. 0～

- ・「小中学校教育」のあり方に関する基本方針の策定
- ・不登校対策の柱「白石きぼう学園」による教育活動の推進
- ・幼保小の接続と連携、学びの連続性を踏まえた架け橋期のカリキュラムの実践
- ・「地方教育アドバイザー」制度の活用
- ・「国際的教区評価と個別最適化学習のためのAIモデル構築」事業への参加
- ・「文部科学省CBTシステム（MEXCBT）」とAIドリルの連携による教育DXの推進
- ・本市独自の学力・学習状況調査を活用した児童生徒の学力の把握
- ・「非認知能力・学習方略」の育成、「白石市教育アドバイザー」の積極的活用
- ・「英語特区」の取り組みの充実

■歴史遺産・伝統文化の継承と活用

- ・地域の歴史遺産・伝統文化の魅力発信によるシビックプライドの向上

2. みんなで地域づくりを進める

■協働のまちづくりの推進

- ・「地区計画」の策定を支援
- ・「人と地域が輝く未来共創交付金制度」の活用を支援
- ・（仮称）白石地区まちづくり協議会設立準備委員会の取組を支援

■市民と行政の情報共有

- ・インスタグラムなどのSNS情報発信強化と子育てに役立つ情報などより分かりやすい情報発信

■持続可能な行財政運営

- ・デジタル技術を活用した効率的で効果的な事務事業の実施を推進
- ・ふるさと納税寄附金の返礼品の拡充とともに、シティプロモーションの強化
- ・企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）制度による公民連携の推進

3.暮らしをともに支え合う

■子ども・子育て支援の充実

- ・「白石市幼児教育・保育のあり方に関する基本方針」に基づく、（仮称）白石市認定こども園・子育て支援施設の整備
- ・こども家庭センターの連携・協働による切れ目ない支援
- ・「子ども第三の居場所事業」の充実
- ・子ども医療費助成制度の拡充

■地域医療体制の充実・健康づくりの推進

- ・「公立刈田総合病院経営強化プラン」に基づく病院事業の推進
- ・在宅医療の充実
- ・白石市医師会や仙南歯科医師会白石支部とさらなる連携
- ・安全・安心な医療の提供体制強化

4. 安全・安心を守る

■防災・減災対策の充実

- ・あらゆる情報の迅速な収集・伝達の強化
- ・自主防災組織への支援を継続

5. 活力・賑わいを創る

■農林業の振興

- ・地域農業の将来のあり方を示す「地域計画」の推進
- ・共同利用機械を活用した作業の効率化を推進
- ・飼料用米への作付転換を支援し「耕畜連携」を推進

■農林産物の高付加価値化

- ・「宮城白石産ササニシキ復活プロジェクト」の支援
- ・「白石三白野菜」をはじめとする農林産物と6次化商品の情報発信によりブランド化を推進

■商工業の振興

- ・企業立地優遇制度により投資を促進
- ・「仙台南部工業団地」企業募集による新たな企業誘致の推進
- ・伝統工芸品・特産品の販路拡大や、継承・発展に対する取り組みを支援

■観光の振興

- ・インバウンドの推進に力をいれたさまざまな媒体を活用した効果的な情報発信
- ・東北観光推進機構など各種団体と連携した観光振興の推進
- ・白石城開門30周年記念事業を契機とした誘客と認知度向上

■雇用・就労支援の充実

- ・「創業塾」「空き店舗等対策事業補助金」による創業支援

■交流活動の推進

- ・「地域活性化起業人制度」を活用したシティプロモーションの推進

■移住・定住の促進

- ・「結婚新生活支援事業補助金」による若い世代の婚姻に伴う新生活支援

6. まちの未来を描く

■豊かな自然環境の維持

- ・「第3次白石市地球温暖化実行計画（区域施策編）」の策定
- ・「第3次白石市環境基本計画」に基づく「水とみどりを誇るまちしろいし」の実現

■快適な生活環境の構築

- ・水道施設及び下水道施設の老朽管更新工事などのハード整備
- ・「雨水管理総合計画」「内水ハザードマップ」の策定
- ・「空き家バンク制度」の周知と活用

■道路・公共交通の整備

- ・「白石市地域公共交通計画」に基づき公共交通を確保
- ・「人と地域が輝く未来共創交付金」を活用した山間地域などにおける住民主体の新たな移動・外出サービスの整備

■魅力ある都市空間の整備

- ・都市計画道路白石沖西堀線事業
- ・白石駅前の県道白石駅停車場線と市道東小路線の無電柱化を進めるための調査に着手

持続可能なまちの実現に向けて～当面の目標と課題～

■新たな雇用創出のための仙台南部工業団地への企業誘致

■質の高い教育と子育てしやすい環境づくり

- ・子どもたちの未来を拓くための教育改革の推進
- ・妊娠期から子育て期に至るまでの切れ目ない支援体制の確立

■「（仮称）白石中央スマートインターチェンジ」と周辺施設の整備

- ・交通利便性の向上、防災力の強化、観光と産業の振興、雇用の創出、健康の増進など、さまざまな効果が期待できる「地域活性化の起爆剤」として、地域経済の発展、市民サービス向上の好循環の創出を推進

■国の施策や住民ニーズにスピード感をもって対応するための組織再編

- ・副市長を２人体制に
- ・「市長公室」を新設

Target 4 安全・安心を守る



●**防災・減災対策の充実**
「白石市地域防災計画」に基づき、東日本大震災や令和元年東日本台風などの災害を教訓として、地震や台風、集中豪雨などのさまざまな災害への対応に万全を期し、災害に強い安全・安心なまちづくりを進めます。

●**交通安全・防犯対策の充実**
振り込め詐欺などの特殊詐欺などが発生していることから、警察や各地区防犯協会との連携を強化して防犯意識の向上を図り、犯罪の起こりにくいまちづくりを推進します。

●**地域における防災力の強化**
「自助」である災害への備えと、「共助」である住民同士での助け合いが災害時の救済軽減には不可欠であることから、引き続き自主防災組織への支援を継続するなど、地域防災力の向上を目指します。

Target 5 活力・賑わいを創る



●**農林業の振興**
農林産物の高付加価値化は、「宮城白石産リサニシキ復活プロジェクト」を引き続き支援するとともに、「白石三日野菜」をはじめとする農産物と6次化商品の情報発信を積極的に実施し、ブランド化を推進します。

●**観光の振興**
本市のシンボルである白石城が開門30周年を迎えることから、史実に忠実に復元された本建築である白石城を広くPRするとともに、開門30周年記念事業を実施し、市民のみならず全国からの誘客と認知度向上を図ります。

●**交流活動の促進**
多様性を認め合う取り組みは、「第3次白石市男女共同参画基本計画」に基づき、男女があらゆる分野でその能力を發揮し、ともに支え合えないから誰もが生涯にわたり自分らしく安心して暮らしていくことができるまちを目指します。

Target 6 まちの未来を描く



●**豊かな自然環境の維持**
「水とみどり」を誇るまちらしい」を実現するため、「白石市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例」に基づき、自然環境と生活環境に配慮した事業を推進し、持続可能な循環型社会の構築に努めます。

●**道路・公共交通の整備**
既存の公共交通では対応できない山間地域などにおける住民主体の新たな移動・外出サービスの整備に向けて、「人と地域が輝く未来共創交付金」に追加した枠組みを活用し、住民が主体的に実施する活動を支援します。

●**快適な生活環境の構築**
「安心・安全で将来に受け継げる水質」のため、適正な施設管理を継続し、少人数での運営体制に対応するため、引き続き民間事業者の積極的活用を図ります。

Target 1 人・文化を育む



●**学校教育の充実**
不登校支援・対談の柱の一つである学びの多様な学校「白石きぼう学園」は、令和5年の開校以来、不登校に悩む児童生徒が、自分に良や特徴に気づき、社会的自立に向かうことができている学校として認知度も高まり、その役割を大きく果たしています。引き続き他の不登校支援・対策と合わせた学びの保障の場として、教育支援センターをはじめ、家庭や地域、企業、行政の連携・協働による教育活動を推進していきます。

●**歴史遺産・伝統文化の継承と活用**
歴史遺産・伝統文化の継承と活用は、観光資源としての活用が期待でき、地域の個性や独自性、アイデンティティを示すものとして重要です。地域の歴史遺産・伝統文化を掘り起こし、市民に対して魅力を発信する取り組みを進めます。

Target 2 みんなで地域づくりを進める



●**協働のまちづくりの推進**
まちづくり宣言の実施計画である「地区計画」がすべての地区において策定できるように継続して支援するとともに、「人と地域が輝く未来共創交付金制度」により、地域住民の皆さんが思い描く地域の将来像の実現を支援します。

●**市民と行政の情報共有**
インスタグラムなどのSNSを活用した情報発信力を強化し、子育て世代の方に役立つ情報など、よりわかりやすい情報発信に努めるとともに、市の施策を市民の皆さんに直接説明する機会を増やし、正しくご理解いただけるよう努めます。

●**持続可能な行政運営**
「白石市デジタル化推進方針」をふまえて、デジタル技術を活用した効率的で効果的な事務事業の実施を推進し、利便性を実感できる住民サービスの実現を目指し、令和7年度末までに標準仕様システムへの移行を行います。

Target 3 暮らしをとにも支え合う



●**子ども・子育て支援の充実**
子育て支援の拠点施設を整備し、妊娠前から子育て期に至るまでの切れ目ない支援体制の充実を図り、令和7年度は（仮称）白石市認定こども園・子育て支援施設の基本設計業務に取り組みます。

●**地域医療体制の充実・健康づくりの推進**
公立旧総合病院を引き続き指定管理者制度により管理運営し、二次救急医療、回復期医療の充実など、指定管理者と連携し、今後も地域住民のための信頼される病院としての役割を果たしていきます。

●**高齢者福祉の充実**
高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう、より一層の高齢者福祉サービスの推進を図り、健康寿命の延伸に努めます。

■目的別の予算額と主な事業

- 民生費 54億9,026万1千円 (28.6%)
 - 保育事業 (保育園等の運営、給付費) 10億4,642万9千円
 - 障害者総合支援費 8億5,493万7千円
 - 子ども・心身障害児者医療費助成事業 1億8,405万3千円
- 認定こども園・子育て支援拠点施設整備事業 2,033万7千円

- 土木費 41億2,395万1千円 (21.4%)
 - 道の駅整備事業 20億9,675万5千円
 - 施設長寿命化対策事業 5億1,820万円
 - スマートインターチェンジ整備事業 4億5,475万2千円
- 交付金事業 1億6,233万5千円
- 無電柱化推進事業 1,727万8千円

- 総務費 28億7,738万円 (15.0%)
 - ふるさと納税推進事業 2億3,664万8千円
 - 旧いきいきプラザ解体事業 2億4,387万円
- 市民バス運行管理事業 9,482万7千円
- 白石城開門30周年記念事業 951万5千円
- 集落支援員事業 485万円

- 衛生費 19億1,917万3千円 (10.0%)
 - 病院事業会計負担金、補助金、出資金 10億3,589万2千円
 - 予防接種事業 1億3,220万5千円
 - 各種健診事業 1億1,721万1千円
 - 母子保健事業 3,376万6千円

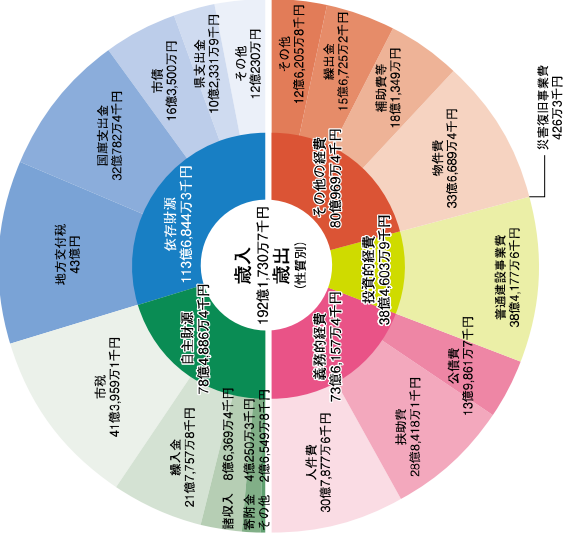
- 教育費 16億5,150万7千円 (8.6%)
 - 教育情報化推進事業 1億9,327万4千円
 - 外国語・国際理解教育推進事業 3,119万2千円
 - 学びの多様な学校等運営事業 2,852万6千円
 - 学力向上プロジェクト事業 1,481万6千円

- 公債費 13億9,861万7千円 (7.3%)
- 商工費 6億7,217万1千円 (3.5%)
 - 白石スキー場費 1億6,206万4千円
 - 物産高騰対策増商品券事業 8,250万円

- 消防費 5億5,337万4千円 (2.9%)
 - 消防施設整備事業 4,724万円

- 農林水産業費 3億4,537万3千円 (1.8%)
 - 森林経営管理推進事業 3,094万6千円
 - 有害鳥獣対策事業 2,629万7千円

- その他 1億8,550万円 (0.9%)



【一般会計】

市の会計の中心となるもので、市民サービスの基本的な経費を計上した会計です。皆さんから納めていただく市税のほか、地方交付税をはじめとする交付金などを財源として、子どもから高齢者までだれもが安心して暮らすための各種福祉事業、道路や公園などの都市基盤の整備、学校教育や生涯学習事業などを行います。

【特別会計】

特定の事業を行う場合、特定の歳入をもって特定の歳出に充て、一般の歳入歳出と区分して経理する会計です。本市は3つの特別会計を設けています。

特別会計	計
国民健康保険	82億5,720万5千円
介護保険	36億8,649万8千円
後期高齢者医療	40億4,879万5千円
	5億2,191万5千円

【企業会計】

独立採算を基本とし、地方公営企業法が適用される公営企業の会計です。

企業	会計
水道事業	収益的支出 8億7,162万円 資本的支出 3億5,047万9千円
下水道事業	収益的支出 9億4,916万円 資本的支出 10億5,980万4千円
病院事業会計	収益的支出 6億1,449万8千円 資本的支出 7億4,449万9千円

令和7年度一般会計予算は

192億1,730万7千円

将来にわたって持続可能な選ばれたまち白石市を目指して

令和7年度当初予算は、財政の健全化を保ちつつも、第六次白石市総合計画に基づいた新たな将来像である「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまちしろいし」の実現に向けて、スマートインターチェンジおよび周辺施設整備事業や、認定こども園・子育て支援拠点施設整備事業、子ども医療費助成費や小学校入学金祝い金の拡充といった子育て支援施策などに重点を置きつつ、令和7年5月に白石城開門30周年を迎えることから、記念事業などを実施するための予算編成を行いました。

一般会計、特別会計及び企業会計をあわせた予算総額は320億6,457万5千円で、前年度当初予算額と比較すると7.1%、21億3,217万6千円の増、そのうち、一般会計は192億1,730万7千円で、前年度と比較すると13.5%、22億9,153万6千円の増となりました。

なお、一般会計予算の内容はホームページでもご覧いただけます。

◎財政課 ☎22-1332

歳入

市税は、固定資産税が前年度比4.3%、8,814万7千円、市民税が9.1%、1億2,406万7千円の増となり、全体として1万1千円増の4億3,959万1千円増を見込んでいます。また、本市の大きな歳入である地方交付税は、地方交付金や過去の交付実績1.2%、増の43億円を見込んでいます。その他の歳入では、スマートインターチェンジおよび道の駅整備事業、旧いきいきプラザ解体事業などの実施により、国庫支出金が34,582万2千352万円の増、市の債権償還金が32万9千782万4千円増の16億7,563万4千500万2千円増の3億1,544万7千円増を見込んでいます。

歳出

なお、財源不足に伴う主要3基金（財政調整基金、減価基金、都市整備基金）からの繰入れは、5,680万円増の21億3,680万円を見込んでいます。人件費は、前年度比4.1%、1億2,117万9千円増の30億7,877万6千円となりました。扶助費は、令和7年度から子ども医療費助成費の対象を拡大するとともに、児童手当や障害福祉サービス給付費の増加などで、3.3%、8,565万3千円増の28億8,418万1千円となりました。公債費は、元利償還金の増加で7.3%、9,461万6千円増の13億9,861万7千円となりました。普通建設事業費は、スマートインターチェンジや道の駅の整備事業などの増、加えて、扶助費などの3,408万8千円増の38億4,177万6千円増を見込んでいます。物件費は、旧いきいき

市債

令和7年度は、新たな市債の借入を16億3,500万円、これまで借り入れた市債の元金償還金を13億5,200万1千円見込んでいます。そのため、令和7年度末の残高は、前年度末の4,126万5千円に対し、2.6%、2億2,999万9千円増加し、1億2,442万9千円（うち臨時財政対策債32億8,995万9千円）と見込んでいます。

ラザ解体事業や小中学校新築、物産高騰対策増商品券事業、システム標準化・共通化関連事業などの実施により、24.7%、6億6,637万8千円増の33億6,689万4千円増となりました。補助費等は、病院事業会計に対する補助金の減少により、10.2%、2億5,731万1千円減の18億1,349万円となりました。